

各 位

党派を超えて国家的課題を追求する
公益財団法人 協和協会
時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信 夫
両団体理事長 半 田 晴 久
交通部会長 ? 松 本 治 男
専務理事兼事務局長 清原 淳平

交通部会のお知らせ (第241回)

日 時 平成28年7月26日(火) 午後1時半～3時半
場 所 衆議院第一議員会館 地下1階 第5会議室
千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・南北線)①番出口より下車2分、
永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車5分。当日、
午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。そ
の時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにて
お待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「第5会議
室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

- 議 題
- 1、最近の交通事故情勢について想う
挨拶 部会長(元警察庁)
 - 2、道路交通法施行令の一部を改正する政令
 - 3、自動運転をめぐる最近の動向と警察庁の取り組みについて
 - 4、交通事故統計(6月中及び7月25日まで)
解説 警察庁交通企画課 落合大地課長補佐(警視)

報 告

去る6月28日開催の第240回交通部会は、まず、冒頭に、
清原淳平専務理事より、去る6月20日、吉田英法部会長が急
逝されたとの報告があり、御遺影を掲げ、御供花を飾り、参加
者一同からは追悼のお言葉をいただき、一同にて急逝を悼みま
した。

その後、各種議題について、小野正博内閣官房内閣衛生情報
センター元次長が仮議長を務め行われました。警察庁交通企画
課の中嶋正浩課長補佐(警視)より、「自動走行システムに関す
る公道実証実験のためのガイドライン」について解説がありま
した。現行道交法上でも、保安基準を充たす車両であって、緊
急時に運転者が必要な操作を行うことが出来れば、自動走行シ

システムを用いた乗用車の実証実験は、特に届け出を出したり、特区をつくる必要はなく、実験場をはじめ、交通量の少ない公道などでも行なうことができる。また、システムが異常を起こした際は、ドライバーの責任において適切な運転措置が行われることが求められており、サイバーセキュリティの確保も同時に求められている。こうしたガイドラインを公表することにより、自動走行システムのさらなる技術向上に資することが出来るものと考えている。

次に、「平成27年版運転免許統計」について解説がありました。平成27年時点での運転免許保有者は、8千2百万15万8人で、昭和44年からおよそ3.3倍増。男女比は55対45である。このうち、65歳以上の高齢者は24.1%である。申請によって運転免許を取り消した件数は約28万5千件で、10年前に比べ13倍に増え、そのうち95%は高齢者である。免許停止や取消しといった行政処分は、全体的には年々減少傾向にあるが、死亡事故やひき逃げ、飲酒などを原因とする重大な違反による免許取消は、昨年は増加した。

次に、「交通事故統計」について説明がありました。6月27日（部会前日）までの事故死者数は、1793人で前年比65人の減、うち高齢者は979人で同12人の減である。5月中の死者数は323人で、前年比9人の増となっている。また、飲酒ありの死亡事故が前年比11件増加しており、憂慮されるところである。

解説の後、委員一同にて盛んな意見交換がありました。○日産の広告を見ると、あたかも運転者が何もせずに自動車が走っているようなイメージをかきたてられるが、誤作動を起こした場合の措置が適切に出来るかが心配だ。○サイバーテロに遭う恐れもあるので、中々VIPを乗せる自動車には導入が難しい。○例えば自動運転の車に乗る運転者が酒気を帯びていて事故が起きたら、それは飲酒運転と呼べるのかどうかも気になる点だ。

7月26日（火）の交通部会（衆1）に

出・欠（いずれかに○印）

事務局宛 F A X 03-3507-8587

御芳名 _____

貴方様の F A X _____

電話 _____

**テロ対策への警備から、非会員で参加希望の方は、必ず、
前日までに事務局へ御連絡下さい。**

事務局 ☎03-3581-1192 時代を刷新する会事務局 ☎03-3272-4320

H P <http://www.jidaisassin.jp> Eメール kiyohara@jidaisassin.jp